

市長が行く

No.14

茂原市長 田 中 豊 彦

民主党連立政権に期待すること

第45回衆議院選挙が行われ、民主党が圧勝して終わりました。民主党連立政権に対し何を一番期待しているかと聞かれれば、「眞の意味での地方分権が進んでいくことに期待している」と答えます。

民主党のマニフェストの中には、「国と地方の関係を対等、協力関係に改める」「ひも付き補助金（決められたものにしか使えない金）をやめ、地方に自由に使える一括交付金として交付する」「地方にできることは地方にゆだねる」とあります。今までの自民党の施策とは大きく異なっているように思います。もしこれが実現するならば、現在予算がないためにできないことについて着手することも可能になります。

今までなら、学校の耐震化で補助金がついてきても、仮設校舎の工事は補助金対象にはならず、一般財源からまかなわざるを得ませんでした。長生病院の病棟老朽化に対する建て直しについても、国の補助金の基準単価が建築の標準単価の約半分に規定されていました。これが現実がありました。これ

はほんの一例ですが、地方自治体にとつては、自由に使える一括交付金は、大変ありがたく、大いに期待するところであります。

ただ、一方で地方分権改革の原点から言えば、地方自治体が自主財源を持つことが重要で、現代税制の基幹税（所得税、消費税等）に対する課税権を中央政府と地方自治体に対等に設定することが必要であるとされています。つまり地方自治体にも課税権を与えるということです。一括交付金をもらうためには、国への陳情を行わなければなりません。

自主財源を持つことによって、地方自治体がより自由に、なおかつ効果的に、住民のために、税金を使えるようになります。真の地方分権に近づいて行くと言えるのです。民主党的マニフェストではそこまで謳つていません。この点からすると、まだ不十分ではあります。ですが、もしマニフェストが実現すれば、今までに比べたら、少なくとも一步前進したということができるでしょう。今後の展開を楽しみにしております。